

【学生への受入れについて】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答（150字程度）	担当部署
Q1 大学を選ぶときに、どの程度アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）を参考にしましたか。また、大学選びでは、何を一番重視されましたか。 アドミッションポリシーはこちら>>>	1	・面接対策に於いて本学の“アドミッションポリシー”を読み、受け答えの練習をした程度 →指定校推薦枠での面接試験 ・資格・免許の取得について、通いやすさ、自分が学びたい学問分野の専門家がいるかどうか 学部・学科の活動について（どんなことを学ぶのか？）など →下線部を引いているものが一番重視したもの	各学科・専攻での学びに必要な知識・技能、思考力、態度・姿勢等をアドミッションポリシーとして明文化しています。そして、それらを身につけていることを測るための入学試験を実施しています。資格・免許が大学選びで重視している点である受験生が多いと認識しています。広報を行う際には、資格・免許が取得できるだけでなく、広く、深い学びができることや学ぶことによって得られるものを伝えるよう努力しています。	入試対策室
	2	アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）は、あまり深くは参考にしなかったが、自分自身の資質・能力と学校が求める特性がかけ離れたものでないかどうかの確認に用いた。大学選びで最も重視したことは、学校紹介の冊子に掲載されている学科での学びの雰囲気や学べる内容である。その大学（学科）では、他大学（他学科）とのどのような差別化ができるか、他大学には無い特徴は何かという視点を重視した。	各学科・専攻での学びに必要な知識・技能、思考力、態度・姿勢等をアドミッションポリシーとして明文化しています。そして、それらを身につけていることを測るための入学試験を実施しています。大学の雰囲気を知ってもらうには、オープンキャンパスが良い機会となります。他大学にない学びを具体的に伝えるために、オープンキャンパスを活用していきたいと思っています。	入試対策室
	3	A0入試や公募推薦入試で入学しようとしており、どのようなことが求められているのか知るために参考にするようにしました。A0入試での入学でしたが、準備するうえで大阪大谷大学に入学してからやりたいこと、学びたいことを考えることが出来ました。大学選びで重視したことは、幼児教育だけではなく特別支援教育が学べる等多彩な学びが出来る場であるということ、自分がしたいことがあるのか（手話）、この大学にいらっしゃる先生方から学びたいという自分の思いを重視しました。	アドミッションポリシーや大学選びの要因について詳しく聞くことができ、本学に対する関心と選択の理由を知ることができました。受験前に大学について詳しく調べることは、非常に重要なことです。そのためにも大学側からも様々な情報を発信していく必要があると感じました。また、私たち教職員は学生がより良い学修環境で成長し、自身の目標に向かって進むことを支援するためにも、アドミッションポリシーを重視しています。こうしたことの具体的な取り組みも受験生にわかりやすい形で情報提供に努めていきたいと思っています。	教育学部（幼児教育）
	4	教員を目指しているため、教育職に就く強い意志を持っている学生を求めている大学や、個人だけでなく、様々なことを通じて他者と関わることのできる大学を探していた。アドミッションポリシーは軽くではあるが全体的に目を通していた。また、自分のなりたい職業（教員職）に就けるような免許が取れるかを確認し、実際に大学へも足を運び、オープンキャンパスでの講義内容や大学の雰囲気を重視した。	アドミッションポリシーでは、高校生にとって分かりやすいように説明しており、それを見てもらっていることは心強いと思いました。取得できる免許についても説明はしているものの、コロナ禍におけるオープンキャンパスでは、学校の雰囲気を体感してもらう機会が少なく、本学の特色である「学生と教員の距離が近い」ということについて十分に見てもらえませんでした。昨年から今年にかけてのオープンキャンパスに参加してもらうことで、効果的な広報ができていると思っています。今回の意見を参考にして、オープンキャンパスの内容の改善をさらに進めていきたいと思っています。	教育学部（学校教育）
	5	大学選びの際には、アドミッションポリシーを「この大学ではこのような理念を持っているんだ」という程度に参考にしました。また、選んだ時に1番重要視したのは、学部の説明やカリキュラムの内容である。どのようなことをするのか、まだどんな勉強ができるのか資格は何が取れるのかも同じように重視していた。	No.1で対応	入試対策室
	6	大学を選ぶ際は、学べる学問領域や、偏差値の観点から調べていたため、アドミッションポリシーの存在を知らず、全く参考に出来ていなかったです。大学選びでは、自分が学びたい学問領域を学ぶことが出来るかを一番重視して選びました。	各学科・専攻での学びに必要な知識・技能、思考力、態度・姿勢等をアドミッションポリシーとして明文化しています。そして、それらを身につけていることを測るための入学試験を実施しています。学びたい学問領域や学ぶ内容を重視している受験生が多いと認識しています。どのように学んでいるのかも理解してもらうことが大切だと考え、オープンキャンパスを含め、広く知ってもらう努力を行います。	入試対策室
	7	大学を選ぶに当たって、学びたい内容の授業があるか、特に教育に関することやスポーツに関することの勉強ができるかを第一に確認した。特に入試方法がスポーツ推薦であったため、部活動の戦績や方針も重視して大学を選んだ。	教育理念やスポーツ推薦入試に関係する部活動の活動方針を事前に把握し、入学後も目的を達成するために努力していると推察しました。引き続き入学時の目的を見失わず、卒業後に社会で活躍する姿を想像しながら文武両道に取り組んでほしいと思います。	人間社会学部（スポーツ健康学科）
	8	アドミッションポリシーにつきましては、入試方法や入学者の数、過去の在籍者の進学率を参考にしました。大学選びでは、家からのアクセスの良さ（駅と大学の近さを含む）を重視しました。	各学科・専攻での学びに必要な知識・技能、思考力、態度・姿勢等をアドミッションポリシーとして明文化しています。そして、それらを身につけていることを測るための入学試験を実施しています。通いやすいことを重視している受験生も多いです。そのような立地であることが分かるよう説明していきたいと思っています。	入試対策室
自由記述	9	高校生の頃、大学の方が高校に来てくださったということを先生から伺ったことを覚えています。ありがとうございます。	受験生に本学を知ってもらう機会として、直接話をするのは重要だと考えています。様々な機会を通じて、理解してもらうよう取り組んでいきたいと思っています。	入試対策室
	10	本学の知名度の低さが起因していると考えられる。ポスターなどは難波の南海線、榎原神宮前行き車内ポスターであったが、高校生へ伝える取組が少ないと感じた。本学のメリットはホームページに出ているものがあるが、他大学より劣っているのではないかと、求めているニーズと異なるものではないかと感じた。また、入学金の入金や書類を提出する日程が合格日から短いことについて、両親の都合もあり入学時大変であると感じた。	所属する学部は異なりますが広報に関する点では、学生委員からの意見と同様の思いを持っており、さまざまなところで見られるようにしたり、電車やメディア等への発信をしたり、できるだけ進めていけるようにしていきたいと思っています。 オープンキャンパスに来場した受験生に関しては、参加することでさまざまなことを知ることができ、満足してもらっていると思いますが、外部のポスター等、学外で本学のことを知ってもらうという点に関しては、毎年工夫しながら、どのようなことが高校生にとって知りたい情報なのかということを探りながら毎年少しずつ変えていっているという状況にあります。また、近畿大学ほど目新しく、目を引くような広報をするということは難しいですが、本学としてもコツコツとアピールできるポイント、受験生の知りたいものを押し量りながら情報発信をしているところです。なお、小さな広告であったり、大きな看板であったりもしますが、どのような内容にするか随時工夫をしているところですので、こういう風なものがあったらいいな、こういうものが分かりやすかったなというものがあれば、それらを参考に活用していきたいので教職員へ伝えてほしいです。	教育学部 入試対策室

【学修支援について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q2 「Moodle」や「tani-WA」といった本学の学習支援システムは、利用しやすいものになっていますか。また、教員によるオフィスアワーは活用していますか。	11	tani-WAは授業等でも日常的に使用しているが、Moodleの方は滅多に利用することはない。コロナ禍での「体温測定並びに入学許可証の発行」や教職員関連の用事がない限り使用しない。また、全てtani-WAもしくはWEBポータルサイトで完結できればいいと感じている。	tani-WA、Moodle、あるいはWEBポータルサイトについては、教員側もどの方法で連絡すればよいのか悩むときもあり、学生の皆さんにとっても非常に悩むところもあると思います。悩む理由のひとつとしては、それぞれ目的が異なっている部分があるためであり、tani-WAは授業に係る課題やレポートのやり取りというのがメインの目的で、WEBポータルサイトはもう少し広い範囲で一方向的に情報伝達するというもの、Moodleに関してはもう少し情報を集約するようなシステムではないかと思っています。ただ、それぞれの学習支援システムに、どのような目的があるのかということについては、学生の皆さん、特に1回生の皆さんへは、なかなか伝えきれていない部分もあると考えられることから、もう少し丁寧に説明していきたいと思っています。	文学部 (日本語日本文学科)
	12	「Moodle」は使用機会が少ないため、使用方法に慣れておらず、実際に使用しなければならぬ時に容易に使いこなすことが困難である。「tani-WA」は、非常に使いやすく、各講義においても便利なツールだと実感している。オフィスアワーは時々活用している。講義内容の質問や確認を行う際に、非常に便利である。	学修支援システムのうち、tani-WAの利用しやすさを評価してもらい、嬉しく思います。Moodleについてはやや使いこなすににくいとのことですが、今後、より利用しやすくなるようにシステムやマニュアルを整備していきたいと思っています。オフィスアワーも活用してもらいありがとうございます。	文学部 (歴史文化学科)
	13	学習支援システムはとても利用しやすいです。自動メールがきて、見る習慣が身に付いてレポート提出や小テストを提出できています。また、コメント機能も利用して先生方とやりとりもできました。(オフィスアワー)研究室に伺うこともあり、お話を聞いてくださったり就職活動について指導いただいたりたくさん活用しています。	「Moodle」や「tani-WA」を上手く活用し効果的に使用できていたようで良かったです。コメント機能を利用して教員とのコミュニケーションを円滑に行えたことは、学生のみならず教員にとっても非常に有益なことだと感じています。学生の皆さんが学習支援システムと教員のオフィスアワーを有効に活用し、学業とキャリアの目標を達成できるよう、今後もサポートを続けていきたいと思っています。	教育学部 (幼児教育)
	14	Moodleはあまり使用する機会がなく、コロナ禍における体温チェックのときに使う程度であった。tani-WAは課題等を提出するときに、文字数等も表示されるためレポートを提出しやすく、提出期限も見ると分かるようになってきている。それに比べMoodleは通知が来にくく、提出を忘れてしまうことが多くなるように感じる。	当初はMoodleとtani-WAの2つのシステムを使って始めたものが、現在はtani-WAに集約されてきています。なお、tani-WAについては、大学から学生の皆さんへたくさんの情報が届くため、そこから必要な情報を選択することが難しいとも聞いています。今後は、tani-WAの利便性を学生の皆さんにしっかりと説明し、理解してもらおうとともに、こちらからの連絡事項がきちんと届けられているのかについても確認することが必要であると考えています。	教育学部 (学校教育)
	15	「tani-WA」などはとても使い勝手がよく、自分がやりたい時間に行えるのでとても良いと思う。しかし、「Moodle」は「tani-WA」と比べるとメニューが少し見にくいことや使い方がいまいち分りにくいと感じる。オフィスアワーに関しては、メールなどもあるため質問しやすいと思う。	ご意見ありがとうございました。「tani-WA」の活用が定着し、かつ、24時間利用できることが使いやすさの実感につながっていることと思います。「Moodle」による情報提供は、できるだけシンプルに示していく等の工夫を考えていきたいと思っています。	教育学部 (特別支援)
	16	「Moodle」や「tani-WA」のような学習支援システムは、利用しやすいと感じています。特に、「tani-WA」は利用頻度が高いため、24時間利用可能な部分は非常にありがたいと感じています。ただ、「ActiveAcademy」に関しては、日付が変わると数時間使えなくなってしまう所が少し不便に感じてしまう時があります。オフィスアワーに関しては、基本的に活用は出来ていませんが、ゼミの担当の先生には、空き時間等に対応していただけています。	オンラインの学修支援システムについて肯定的な評価をもらったことについて、その選定や運用にかかわる教員組織としてうれしく感じています。また、オフィスアワーについても、よく活用しているもらっているようで、安心しました。なお、Active Academyの情報を、毎日、新しく更新させるため、大学で管理している学生データやその他新しい情報を日付が変わった直後から、データ移行の作業を行なっています。その移行時間は、Active Academyから新しい情報を入力することができません。なお、同じシステムを使用する他大学も同様であるということも申し添えておきます。Moodleについては、24時間利用可能です。	人間社会学部 (人間社会学科、スポーツ健康学科)
	17	どちらもログインしやすく、学習内容などが振り返ることができてとても便利に活用している。tani-WAはどの時間帯でもログインできるが、Moodleは24時になるとログインできなくなるため、少しそこが気になるころではある。同じ学部の教員のオフィスアワーはよく活用しており、授業と勉強に関する相談や就職に関することをよく相談している。		
	18	「Moodle」や「tani-WA」ともに利用しやすいと感じます。教員によるオフィスアワーは教員や科目により異なりますが活用しています。(活用できるような環境は用意して頂いています。)	「Moodle」や「tani-WA」ともに利用しやすいということは何よりです。オフィスアワー共々、一層利用しやすいものになるよう努めていきたいと思っています。	薬学部 (薬学科)
	19	「Moodle」について補足説明	他の委員からの回答でも話があったとおり、それぞれのシステムについて説明不足であると思われます。tani-WAとMoodleという2つのシステムがなぜあるのかということについて、簡単に補足説明します。これらは学習支援システム(LMS)と呼ばれるもので、2つとも同じようなことができます。ただ、長所・短所がそれぞれあり、その長所と短所を上手く使い分ける必要があります。まず、tani-WAについては、毎年学生の皆さんからは使いやすいとの意見をもらっています。ただ、tani-WAは外部の業者が運営しているものであるため、費用がかかるということもありますが、それ以上にサービスの内容が、こちらが意図しないかたちで変更されるというリスクがあります。一方でMoodleについては、学生の皆さんからは扱いにくいという声も聞いていますが、調査をするときに学生の皆さんのデータを集約、その集約したデータを集計・分析することが可能であり、その結果を次の教育改善に役立てていくということが出来ることから、大学としては使いやすいシステムとなっています。それと同じことをtani-WAでしようとする別の費用がかかったり、こちらの思い通りに動いてくれなかったりするという側面もあります。そのため授業では主にtani-WA、調査関係ではMoodleという使い分けをしています。それがかえって学生の皆さんに混乱を招いているところもあるかもしれませんが、Moodleでの調査において、回答率が90%程度あることから、学生の皆さんがある程度は使いこなしてくれているのではないかと考えています。 (WEBポータルサイトとの使い分け、一本化について) WEBポータルサイトは学生の皆さんの成績や学籍を総合的に管理するシステムのため、授業毎にコンテンツを揃えたり、課題に対してフィードバックしたりすることはやりにくい側面もあります。それぞれのシステムの目的が異なるということもあり、その点は理解してほしいです。	教育・学修支援センター

【キャリア支援について】					
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署	
Q3 キャリア教育科目やインターンシップ等、大学から提供されているキャリア教育支援は、自分が希望している内容となっていますか。また、キャリアセンターや教職教育センターは、気軽に足を運び、進路等について相談できる場所となっていますか。	20	・キャリア教育科目などの教育支援は、進路選択や就職（試験）対策に役に立っていますが、キャリアセンターを利用したことはありません。 ・教職教育センターは資格取得の関係でたまに利用しますが、相談はあまりしません。	1・2年生時の基礎ゼミで「キャリアセンターツアー」を取り入れてもらえるよう働きかけ、学生の皆様に、より気軽にキャリアセンターを利用してもらえるよう努めていきます。 免許取得等で不明な点があれば教職教育センターにお問い合わせください。	キャリアセンター 教職教育センター	
	21	歴史文化学科に所属しており、教員を目指してさまざまなセミナーに参加している。教職教育センターの職員は親身になって相談を受けてくれるが、セミナーで教員が指導をするとき、小学校や、教育学部で取得できる中学校の教員免許に向けた指導ばかりで、社会科の教員を目指す学生の目線からの指導が全くされていない。また、ときどきではあるが、採用者の多い科目の指導を中心に行っており、社会科の教員を目指している学生たちがそこへ参加しても何も得られずに帰ったり、配慮のない発言が見られたりするので、その点を改善してほしい。	今後も引き続きキャリア支援内容の充実に努めていきます。 セミナー等の開催については、引き続き開催案内の周知徹底を強化するとともに、内容においても全ての校種の教員を目指す学生に対応できるよう徹底していきます。個別の相談にも引き続き対応していきます。	キャリアセンター 教職教育センター	
	22	希望している内容となっています。小論文の書き方を学ぶことができ、今後のキャリアについても考えることが出来ました。キャリアセンターでは2、3回生の頃、個人面談を行いました。求人ナビの見方や自分が目指したいものは何なのか考えることができ、相談できる場所となりました。	今後も引き続きキャリア支援内容の充実に努めていきます。	キャリアセンター	
	23	あまり利用したことはないが、説明をきいたり、先輩からの話をきいていると、手厚いサポートがあり、とても良い場所だと感じている。	学生の皆さんにとって利用しやすい施設となれるよう引き続き努めていきます。 今後も教職教育センターでは、多くの学生の皆さんへの支援を続けていきたいと思えます。	キャリアセンター 教職教育センター	
	24	大学から提供されているキャリア教育支援は、かなり豊富であり職種によって選べるのがとてもいいと思う。また、キャリアセンターや教職教育センターはかなり相談しやすく、私自身も教職教育センターによく相談や話を聞きに行くことが多く、とても使いやすいと感じている。	No. 22で対応 No. 23で対応	キャリアセンター 教職教育センター	
	25	キャリア教育科目等の大学から提供されているキャリア教育支援は、充実していると感じています。しかし、キャリア講演会等が授業時間帯に行われていることが多かったため、行くことが出来なかったのが少し残念でした。キャリアセンターはまだ利用したことが無いのですが、敷居は以前より低くなったと感じているため、相談に行きやすくなったのではないかなと感じています。	キャリア支援行事の開催曜日と時間については、出来る限り多くの学生の皆さんに参加してもらえるよう、次年度以降も検討していきます。	キャリアセンター	
	26	キャリア教育科目では、インターンシップに対する早期対応や職業に関する資料集めなどを知ることができた。だが、幅広い有名な企業に関するものが多く、スポーツ健康学科ならではのスポーツに係るような職業をもう少しピックアップしてもらえないかと思っている。また、キャリアセンターや教職教育センターはあまり利用していないが、教員になると覚悟が決まっている人たちは採用試験対策のために教職教育センターをよく利用していると耳にする。私自身、就職活動を始めなければならないことは分かっているが目標が定まっていなかったため何から手を付けばよいのかあまり分からず、結局後回しになってしまっており、大学の支援をほとんど利用していない。	本学では出口に関して大きく2つの全学的な支援があります。キャリアセンターが行う民間企業・公務員に関する支援と教職支援センターが行う教職に関する支援です。また、民間企業・公務員に関しては、各学部が独自で当該学科に關係するキャリアについての支援やさまざまな催し物を開催したり、大学全体としても、さまざまなキャリア教育やキャリア支援行事というかたちで支援しています。なお、将来について悩んでおり、スポーツの關係へ行きたいということであれば、積極的にキャリアセンターへ相談をしたり、学部・学科独自で、その学部・学科に応じたキャリア支援行事も行っていますのでそちらも確認してみてください。加えて、求人検索NAVIも一度利用してみてください。キャリアセンターでは、さまざまな取組をしていますので一度足を運び、参加してほしいです。就職活動は、なかなか1人で取り組んでいくことは大変であるため、本学では1回生のときからキャリア支援行事というかたちでさまざまなことを支援しています。もちろんこれらに参加することもよいと思いますが、さらに積極的に求人検索NAVIを利用して相談の予約をしてはどうでしょうか。早い段階から相談することで、1人で取り組むよりサポートを受けるほうが自分のやりたいことが見つかりやすく、後押しもしてもらえると思えます。積極的にキャリアセンターを利用してください。 今後も教職教育センターでは、多くの学生の皆さんへの支援を続けていきたいと思えます。不明な点があれば教職教育センターに相談してください。	キャリアセンター 教職教育センター	
	27	私の希望している内容と異なると感じます。キャリアセンターや教職教育センターにつきまして、相談しやすいと思えます。	一人でも多くの学生の皆さんから支持されるよう、今後も引き続きキャリア支援内容の充実に努めていきます。 No. 23で対応	キャリアセンター 教職教育センター	
	自由記述 その他、キャリア支援について、気づいた点等があれば記入してください。	28	薬学部の低学年（1～4年生あたり）の学生は、他学部と異なりインターンや就活について知る機会が少なく、試験や講義の關係から就活セミナーのような機会に参加できる学生が少ないと思う。求人検索NAVIで記入している学生にはその方向でキャリアセンターやアドバイザーと面談できる機会を設けたり、メールで耳寄りな情報を得たりすることができればよいと思う。	薬学部は6年制のため、多くの企業が5年生くらいからインターンや説明会を開いているような現状のなか、早い段階から就職や自身のキャリアについて考えていることは素晴らしいことですので、続けていってほしいです。しかしながら、薬学部のキャリア支援現状としては、学部独自では情報提供をしておらず、キャリアセンターとタイアップしながら情報を提供しています。薬学部としては、早い段階からキャリアについて考えている学生が多いとよいですが、あまりそのような状況ではなくモチベーションも下がってくる学生も多いことから、今年の1回生から授業の中で、実際に現場で働いている薬剤師を多数招き、そこでどのような仕事があるのかということと学び、視野を広げてもらう取組を行っています。まずは実際にこの企業で働くかというよりは、自分が将来どのような仕事をしていくのかということについて考える機会を1回生から4回生を対象として設けて、重点的に取り組んでいきたいと考えています。また、5回生になってくると企業からどんどん売り込みになりますので、そのような情報は随時提供していきたいです。学部としては5回生のときに合同説明会も開催していますので、そちらも積極的に活用してほしいです。情報の提供に関しては、キャリアセンターと密に連絡を取りあって進めていきたいと考えています。 キャリアセンターでは、全学部に対しtani-WAを通してそれぞれの学年に応じたアナウンスを積極的に行っています。特に薬学部については、薬剤師試験に合格して社会に羽ばたいてもらうことが前提となっていることもあり、毎年、学内において薬剤師として活躍するための企業説明会を行っています。他にも、本学全体で行っているキャリア支援行事としては、1回生からインターンシップの説明を聞くことができるようになってきました。キャリアセンターの広報が不十分なために、学生の皆さんへ情報が届いていないということもよくないことだと思えます。今後は広報にも力を入れていくということと約束しますので、学生の皆さんには是非ともさまざまなキャリア支援行事に参加してほしいと思えます。	薬学部（薬学科） キャリアセンター

【学生サービスについて】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q4 奨学金等の経済的な支援や課外活動におけるの支援・指導は、適切であると感じていますか。	29	・奨学金（東本願寺奨学金）の募集人数が少なすぎるのではないかと感じます ・課外活動（部活動等）については参加していないのでわかりません。	東本願寺奨学金の募集人数については、以前はもう少し多く設定されていましたが、コロナ禍以降東本願寺から人数枠を検討したいとの申し出があり、現在の人数となってしまったという経緯があります。なお、人数枠については大学の規模に応じて決められています。	学長
	30	適切であると感じる。	学生の皆さんに必要な奨学金制度について、これからも学生課では情報収集とともに、周知方法の検討を進めていきます。これからも、皆さんの学生生活を応援していきます。	学生部
	31	日本学生支援機構の書類提出など、早めに行うことができ感謝しています。課外活動では、学生課に行くことが多かったのですが、親切で丁寧に対応してくださり、安心して課外活動を行うことが出来ました。	日本学生支援機構奨学金について、情報が滞ることなく、学生のみなさんへの周知を心がけていきます。課外活動についても学生課で対応しますので、これまで通り、利用してください。	学生部
	32	課外活動においては、何かをするときの（イベント等）ルールが厳しいと感じるときもあった。たくさん部活がある分、体育館の使用等で、かみ合わない時もあった。しかし、イベントをする際に、たくさん自由がきくようにしていただいた。	課外活動では、皆さんの安全第一を最優先事項としています。そのため、ルールが煩雑と感じることがありますが、学生課で説明しますので、気軽にお問い合わせください。	学生部
	33	奨学金や課外活動の支援や指導は現在のもので適切だと感じる。	No. 30で対応	学生部
	34	奨学金等の経済的支援は適切であると感じている。一方で、課外活動におけるの支援・指導について、学生課の職員は熱心にサポートしてくれるが、教職員のサポートは少ないと感じている。顧問の教員との関わりがほぼなく、自分達がどのような活動をしているのかを把握しているのかが気になる。	奨学金については、学生の皆さん個々の経済状況が異なるため、特にコロナ禍において状況が急変するというような家庭も多く、一人ひとりに個別に丁寧に対応しています。これからも奨学金を活用してもらい、また、学生課にも気軽に足を運んでほしいと思います。課外活動については、体育会と文化会とで少し顧問との関わり方が異なるというところを理解してほしいです。また、委員会活動（体育会・文化会・大学祭実行委員会・Team Y.A.O.・学生広報委員会）については、一人ひとりが主体となって自主的な活動を行っていると感じています。これらに関して困ったことがあれば、これまで同様、しっかりと学生課職員がサポートできる体制を整えていますので相談してください。そして、委員会に所属している皆さんは、積極的にこういった活動をやっていきたいという志があるので、顧問の教員とも自らコミュニケーションを取るよう心がけてほしいと思います。	学生部
	35	現在奨学金とは無縁であり、奨学金についてはあまりわからない。部活動に対する支援だが、私は女子バスケットボール部として大学に支援をしていただきながら施設を利用し、活動を行うことができている。そのため、非常に良い環境で活動できていると感じているが、体育館の利用について近頃厳しくルールが設定され、部活動として自主練習のために利用できていた時間に体育館が使えなくなることで活動時間が減ってしまっている。もう少し自由な活動を行えるような体制と、部活動によってアルバイトをする時間もあまりないため、遠征費や活動費などの支援ももう少ししていただけると幸いです。	体育館の利用に関するルールが近頃厳しく設定されたことについて、説明します。本学の体育館はウェルネスセンターのアリーナ、第二体育館、第三体育館と3か所設けられています。ウェルネスセンターのアリーナについては、完成した当初は施設していませんでしたが、授業及び課外活動等で利用していないときに、学生が寝転んだり食事をしたりしたため、メンテナンス上、何かしらの事故が起こった場合に大学として責任が取れないことから、鍵を掛けることとなりました。第二体育館については、フロアの奥に更衣室がありますが、他の更衣室が足りなくなったときに利用したり、シャワーの施設もあるため、施設していません。そして、第三体育館については、当初は学生の皆さんが体育実技関係の課題を個人的に練習できるように、倉庫も含めて自由に利用できるようにしていましたが、冷暖房が効いており居心地がよいこともあり、全く関係のない学生が飲食をしたり、最近は残念なことです。倉庫の道具で体育館の壁を破損させてしまうようなことが起きました。たまたま今回は怪我をするようなことには至りませんでした。安全管理上、断腸の思いで鍵を掛けて管理することにしました。なお、体育館を課外活動あるいは授業で利用する場合には、その都度届出をすることで利用できるようになっています。ただし、授業時間の利用とバッティングを避けたいといけません。このようななかで、調整や配慮もしなければならぬため、体育施設使用管理・運営委員会に加え、これからは新たに設置されたスポーツ支援センターとともに、学生の皆さんのニーズをできるかぎり大学として反映できるように議論し、利用しやすいキャンパスにしていけるよう努力していきたいと思っています。 (遠征費、活動費に関する支援について) 学生課が教育後援会の費用をそれぞれの団体の前年度の活動実績や背景に応じて、予算を配分しています。課外活動に活用できる費用として、全体的にもう少し余裕があればよいのですが、今のところはこのような状態で活動費用が充当されているということを理解してほしいと思います。	人間社会学部（スポーツ健康学科）
36	はい。	No. 30で対応	学生部	

質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q5 保健室や学生相談室は、健康等に不安を感じたときに、それらは気軽に足を運べる場所となっていますか。	37	・保健室・学生相談室共に利用したことがないのでわかりません →場所は把握しています	体調不良やケガの時はもちろん、健康上で気になることや不安などどんなことでも気軽に相談に来てください。また、保健室では健康診断結果の再交付や健康診断証明書の発行、学生教育研究災害傷害保険（学研災）の保険請求に関することにも対応しています。	保健室
			どこに相談したらよいか分からない時、身近な人には相談しにくい時などに学生相談室を思い出してもらえればと思います。また、ティアワーなどの学生相談室主催のイベントが学生相談室の様子や雰囲気を知る機会になるかもしれませんので、参加をしてもらえたら嬉しく思います。	学生相談室
	38	学生相談室は場所も概ね分かりやすい場所にあるが、保健室の場所が非常に分かりにくい。緊急時に必要な施設であるため、もっと適切な位置に設置すべきである。場所の移動が困難であれば、その周知に努めるべきである。	保健室は4号館と20号館の2か所あります。場所が分からないという意見が多く聞かれたため、場所や利用方法について解説したパンフレットを作成し、新入生全員へ配布しています。その他健診時に自由に手に取れるように設置したり、学内の掲示板にポスターとともに設置しています。今後もポスターやパンフレットの設置について工夫し、HPの活用など周知に努めていきたいと思えます。ポスターを見たら場所の確認を兼ねて是非一度保健室に来ていただけたら嬉しいです。なお、場所が分からないとの声を受け、入学時のフレッシュアミーティング等の中で学内見学を行い、保健室の場所を確認するようにしています。	保健室
	39	保健室や学生相談室は、健康等に不安を感じたときに、気軽に足を運べる場所となっています。一度体調不良で伺いましたが、親切に対応してくださりました。	No. 37で対応	保健室
	40	あまり利用したことがない。	No. 37で対応	保健室
			No. 37で対応	学生相談室
	41	保健室や学生相談室は相談しやすく、何かあった場合などかなり足を運びやすいのではないかと思います。ただ、場所がよくわからず、特に保健室の場所がわかりづらいとよく聞いている。	学生相談室と保健室の場所がわかりづらいという意見が、本会議においても以前からあがっていたこともあり、今年度の4月から1回生を対象に、フレッシュアミーティングの学内ツアーあるいは初回ゼミの時間に、学生相談室・保健室の場所の紹介を組み込むことになりました。今回が初めての実施でしたが、ゼミ担当教員に引率された多くの1回生が訪れ、実際の部屋の中を見学するよい機会となりました。上回生の学生の皆さんには、これまでこのような機会を提供することができず、申し訳なく思っています。今後は、全ての学部・学科において、できるだけ学内ツアーや初回ゼミの時間を利用し、学生相談室・保健室を見学する機会を提供できるよう教職員にも周知を徹底したいと思えます。また、保健室については、今年度よりパンフレットを作成したり、学内の掲示板に心と体の相談に関する相談日等、保健室からの情報を掲示したりすることで、学生が利用しやすい環境作りに取り組んでいます。さらに、学生相談室からは「こころ、ほっこりー学生相談室だより」を作成し、ストレスの解消法等を紹介しています。このようなこともきっかけに必要なときには足を運んでもらいたいと思えます。	学生部
	42	保健室や学生相談室を利用したことがないため、分からない部分も多いのですが、どちらも比較的使用頻度が高い場所に設置されていると思うので、必要となった時には気軽に行けるのではないかなと感じています。	No. 37で対応	保健室
			学生さん達が必要と思った時、学生相談室を選択肢の1つとして思い出してもらえるように、今後も学内ツアーを実施したり、学生相談室の案内や心のケアに関する情報を発信していきたいと思えます。	学生相談室
	43	実際に足を運んだことはほとんどないためあまり詳しいことはわからないが、大学からのメール連絡で学生相談室に関連することが周知されているため、もし何かあったときの健康面への働きかけとして生徒も利用したいとは考えているのだろうと感じている。だが、実際にはなかなか利用しにくい場所になっているのではと感じる。	No. 37で対応	保健室
月に1回、心の健康に関する情報や学生相談室主催の催し案内のために、メールなどで情報発信をしています。見てもらっているようで、ありがとうございます。「利用しにくい場所」とのことですが、他の大学と比べると、利用率は多い方といえます。今後も学内ツアーや情報発信などを通して、より利用しやすいと思ってもらえるような環境作りをしたいと思えます。			学生相談室	
44	保健室や学生相談室は、健康等に不安を感じたときに、気軽に足を運びやすいと思えます。	No. 37で対応	保健室	
		No. 42で対応	学生相談室	

質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
自由記述 その他、学生サービスについて、気づいた点等があれば記入してください。	45	食堂の料金が高すぎるような気がする。物価が値上がりしているなかで、料金を上げるという張り紙を見たことがある。それで少し上がっているのだろうと思うが、それでもやはり学生が食堂を利用するにあたっては高すぎるような気がする。最近キッチンカーを入れているが、これもまた学生料金ではなく、友人が購入しているのを横から値段を見てみると本気の値段を取っている気がする。これは大学に言っても仕方のないことだと思うが、これも値段が高すぎて利用することはないかなと思う。	食堂の料金については、業者や食堂事業者と本学事務局が常に協議・調整を行っており、正直なところギリギリの金額設定で対応しています。大学からも補助金を出して対応していますが、物価や食品が非常に高騰しているなかでは、値上げせざるを得ない状況です。食堂は学生の皆さんのためにあるものなので、なるべく低価格に抑えるという使命をもって、食材の調整・変更をする等、さまざまな工夫や努力をしています。引き続き、できるだけ価格を上げずに中身で満足してもらえるように調整していきたいと思います。なお、成光館と成和館の2つの食堂については、本学と業者の間の条件が折り合わず、退出することとなったため、それに伴い暫定的にキッチンカーを導入しています。できるかぎり後期の早い段階で次の食堂が営業できるように、現在調整をしているところです。また、キッチンカーの価格については、食堂よりは安くはないかもしれませんが、必ず500円程度の商品を最低1品はメニューに加えてもらうように依頼しており、サイドメニューを含めてなかなか食堂では提供できない商品もあるので、ご活用ください。	事務局長
	46	新年度に定期券の更新を毎年行うのはご存じだと思いますが、新学期が始まる前に薬学部では講師による講義があるので、更新のシールを渡す際も柔軟な対応をしてほしいです。健康診断で配布があると思いますが現状講義には間に合わず、経済的状況から交通費に割けないので日程変更等の改善をお願いします。	定期券の更新については、大学と鉄道会社等で「通学証明書」に関して厳格に手続き方法が決まっています。早めに更新シールをお渡ししたいのですが、日程が決まっていますので、現状の手続きで了承してもらいたいと思います。文部科学省より、通学証明書の発行に関して柔軟な対応への協力依頼が届いており、現在調整中です。	学生部

【学修環境の整備について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q6 校舎、図書館、体育施設、情報処理施設、休憩スペース等は、適切に整備され、利用しやすい快適な教育研究環境になっていると思いますか。	47	校舎：机や椅子がガタガタで使いにくいものが多数存在します。 図書館：隅の方の本を使うと埃まみれということが多々あります。 体育施設：利用したのは1回生「体育」の講義のみなので、あまりわかりません。 情報処理：1人1台端末（PC・タブレットなど）を持っているので利用することはほぼ無いです。 休憩スペース：喫煙所の数が少なく、遠いので出来れば数を増やして欲しいです。	<校舎の学生コメントに対して> 教室の机や椅子については、随時点検を行い、故障等の場合には補修を行っています。万一故障しているものをみつけられた場合には、具体的な場所と状況を教職員にお知らせください。 <図書館の学生コメントに対して> 図書館は、様々な学生さんの学習の機会を提供するために資料を多く保存しています。中には手に取る機会がそれほど多くない隅の方の本もあるかもしれませんが、もし、そのような本に気づかれた場合は、是非、カウンターに声をかけてください。 <喫煙所の学生コメントに対して> (喫煙所の増設について) 健康増進法の一部を改正する法律が2020年4月に全面施行されたことを踏まえ、いわゆる多くの人が集まる施設、学校、病院、児童福祉施設、行政機関などは敷地内は禁煙となりました。ただし、受動喫煙を防止できる場所に喫煙場所を設置することができるという例外が設けられていることから、本学においても喫煙所を設置していますが、それを設置する場合には施設利用者が通常立ち入らない場所に設置することが求められています。そのため、学生の皆さんが通るところから少し遠いところに設置しており、増設の予定はありません。健康のためできるだけ喫煙はやめるようにしましょう。	総務課 図書館
	48	適切な整備、快適な教育研究環境であると感じる。	ありがとうございます。今後も学生の皆さんが快適に学修や研究を行える環境整備を進めていきます。	学長
	49	利用しやすい環境となっています。空いた時間に志学館などで自分のペースで作業することが出来ています。	No. 48で対応	学長
	50	自主学習がしやすかったり、たくさんの資料があったり、グループワークできる場があるため、学習しやすい。 部活面では、全ての体育館に冷暖房がついてるわけではないため、ついていない体育館を利用する際は不便である。	今年の秋以降、16号館（成和館）の2Fに新たにラーニングcommonsを整備しましたので、是非利用してください。 すべての体育館にただちに空調を入れることはできません。活動する際には、水分を十分に摂って熱中症等を予防するとともに、ウォーミングアップを入念にし、怪我の予防にも努めてください。	学長
	51		<校舎の学生コメントに対して> 一番古い1号館については、今年度後期に耐震補強工事を進めています。老朽化した校舎については、順次改修を進めていきます。	学長
			<ウェルネスセンターの学生コメントに対して> (ウェルネスセンターのボイラーについて) 故障中のウェルネスセンターのボイラーについては、夏休み中に修理する予定です。	
	52	学内施設に関しては利用しやすく、特に志学館1階のスペースは涼しく静かで勉強に集中しやすい環境であると感じている。一方で、教室の場所によればWi-Fiが繋がらず、パソコンを接続することができなかつたりするので、可能であれば大学全体でいつでもアクセスできる状況にしてほしい。	<Wi-Fiの学生コメントに対して> Wi-Fiを整備してほしいという声は、他の学生委員からのコメントにもあり、学生教育改善会議においても、そのような意見が書かれていました。実際には、去年も同様の意見があり、順次整備を進めているところです。これまでの経緯を簡単に説明すると、大学全体の学内ネットワークの容量が少なかつたこともあり、昨年度の後期に大幅に増やしました。学内では、学内ネットワークが繋がる場所とフリーWi-Fiで繋がる場所がありますが、まだWi-Fi環境が整備されていない箇所があります。なお、成光館の食堂、成和館、玄関前等がフリースポットになりましたが、これらはオープンキャンパス等、来客用に設置していることもあり、データ上限のあるモバイルWi-Fi経由で構成しているため、データ上限になると遅くなったり繋がりにくくなったりします。	学長
	53		<体育館等の学生コメントに対して> すべての体育館にただちに空調を入れることはできません。活動する際には、水分を十分に摂って熱中症等を予防するとともに、ウォーミングアップを入念にし、怪我の予防にも努めてください。	学長
			<Wi-Fiの学生コメントに対して> (成光館の食堂について) 学生の皆さんの利用頻度も高いようなので、今後はフリーWi-Fiではなく学内ネットワークが繋がるように検討したいと考えています。今年に入ってから、前期中に本館1階の大教室等のWi-Fi環境の整備を行い、今後も順次整備を進めていく予定をしています。また、ラーニングcommonsとしては、志学館1階と図書館にありますが、新たに成和館の2階に整備しました。成和館のラーニングcommonsは、給電設備もあり、現在、什器を搬入する段階まで進んでいますので、おそらく秋から使用可能となります。今後はプロジェクター等も準備していく予定をしていますので、勉強やグループでの学習に活用してほしいと思います。	
	54	他の大学と比べるとやや快適とはいえないと思います。	今後とも学生の皆さんが快適に過ごせる環境作りに努めていきます。	学長

質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
自由記述 その他、学修環境の整備について、気づいた点等があれば記入してください。	55	・通信環境（Wi-Fi）が悪すぎます。最近、一部の教室で使用できるようにはなっていますが、それでも大人数が一気に利用すると極端に重くなって、動かなくなります。	現在、Wi-Fiアクセスポイントの拡充を計画的に行っておりますので、改善に向けて鋭意取り組んでいるところです。 本年度につきましては17号館、19号館の各教室、1号館西側各階への設置を計画中です。来年度以降も学内通信環境の改善を行っていく予定です。	情報教育センター
	56	対面講義の配布資料は大学にて印刷し、配布を行っているのに対して、オンデマンド型講義においては授業資料を学生が印刷しなければならず、必要な費用が大きくなり非常に困っているという声を周りからもよく聞く。なぜ、対面講義は無料配布であるのに対して、オンデマンド型講義では資料を自費印刷しなければならないのか。両講義を同等に位置付けるのであれば、講義資料は大学から支給されないのかと思った。	学生の皆さん一人ひとりが、さまざまな経済状況を抱えて学修に励んでいるのはよく理解しているため、できるだけ経済的な負担をかけないようにと努めています。なお、オンデマンド講義については、大学に来学せず自宅等で受講する学生も多いので、資料の配布方法や資料を印刷しなくてもよい方法等、できるだけ経済的な負担を軽減する方法を用いて、オンデマンド授業を安心して受講できるように早急に検討していきたいと思っております。	教務部
	57	食堂でお昼の時間帯に人が多くなるので、座ることが出来ない学生も多くみられます。	現在、食堂事業者の退店に伴う食堂数が少ない状況によりご迷惑をおかけしています。現在後継の食堂事業者の検討を行っており、その間はキッチンカーによる食事の提供もしています。後継食堂事業者による提供ができるまで、しばらくお待ち願います。	総務課
	58	各教室のWi-Fiに関して、志学館のWi-Fiが安定して使えるが、その他の教室だとよく通信が切れてしまったり、画面が固まっているなど授業内でパソコンを使用する時に上手く使えなかったりする場合がある。	現在、志学館以外の教室へのWi-Fiアクセスポイントの設置を進めています。昨年度は1号館A～D教室への設置をし、本年度は17号館・19号館の各教室、1号館西側へのWi-Fiアクセスポイントの設置を予定しています。 ラーニングcommonsについては無線Wi-Fiが利用可能となっております。	情報教育センター
	59	最近では、ショッピングカーは良いと感じました。校舎は6号館を主体として薬学棟や体育館など新しいもの以外は、（木の椅子がしんどい、休憩スペースや食堂が狭くて時間によれば渋滞する等）環境の改善が必要であると感じます。 改善されたことは承知していますが、Wi-Fiの設置数に問題があるのか、校舎によっては繋がらないところがあります。（私の把握しているところでは、実行委員会が使用する教室とその場所の食堂、薬学棟、その他講義で使う教室）おそらく志学館、談話室のWi-Fiが強くなっても他の教室には届いていないと考えられます。 ネット環境が繋がらないと、tani-WAなどの使用を講義内で求めるものもありますので改善して頂きたいと感じます。（本学内で圏外になっており、ネット回線で授業に支障が生じたことがありました。） 周辺に店がほぼないので、学内にショッピングカーの他コンビニや店の設置があると大学の宣伝としても良いと感じます。	<休憩スペース等の学生コメントに対して> 学生の皆さんが憩える空間が足りないことは認識しています。今後とも学生の皆さんが快適に過ごせる環境作りに努めていきます。	学長
			<Wi-Fiの学生コメントに対して> 現在、教室へのWi-Fiアクセスポイントの設置を進めております。昨年度は1号館A～D教室への設置しました。本年度は17号館・19号館の各教室、1号館西側へのWi-Fiアクセスポイントの設置を予定しています。 ラーニングcommonsについては無線Wi-Fiが利用可能となっております。	情報教育センター
<コンビニ等の学生コメントに対して> 学内にコンビニを出店することについては以前から検討はしているものの、長期の休み期間の問題をはじめ、さまざま解決が必要な課題があるためなかなか具体的に進まない状況です。引き続き検討は続けていきます。			総務課	
60	Wi-Fiについて補足説明	(Wi-Fi整備に関する補足説明) 現在、19号館の大教室を順次整備しているところです。なお、ある程度大きな教室はWi-Fiが整備されており、Wi-Fiに接続できない場合も、実はWi-Fiへの接続方法が間違っていたり、使い方を知らなかったりということがあっても構いません。また、本学は、早い時期にインターネットを導入したこともあり、古い設備が多く、それらを順次更新していきながら対応しているものの、鉄筋の校舎や学内ネットワークの容量の問題で一気に進めていくことはできないため、一つひとつ設計をしながら進めています。なお、昨年度からは、かなりのスピードでWi-Fi環境を整備しており、Wi-Fi接続が可能な場所には、必ずWi-Fiのマークを掲示していますので、使い方をよく見て利用してほしいです。それでも他大学と比較すると、どうしても見劣りする部分があるかもしれませんが、利用できる範囲で活用してほしいと思っております。	情報教育センター	

【学生の意見・要望への対応について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q7 学生による授業評価アンケートや学修行動調査等の結果は、学修支援や学生生活、学修環境の改善に反映されていると思いますか。	61	・ 授業評価アンケート→同じ講義を受けるわけではないので判別できません。同じ教員であっても、講義によってやり方が異なっている場合があるので。 →アンケートの結果や担当者のコメントを学校内のPCでしか閲覧できないのは問題だろうと思います ・ 学修行動調査→これに回答して「何かが変わったな」と感じたことはありません。	ご回答、ありがとうございました。閲覧については、内容の特性から学内での閲覧に限定してきました。「学校内のPCでしか閲覧できないのは問題」とのお指摘をいただいたので、安全性に考慮したうえで、学外からの閲覧について検討します。 「学修行動調査に回答したことで変わったと感じたことがない」とのことでしたので、回答が改善に反映されるように検討していきます。	教務部
	62	少なからず反映はされていると感じる。しかし、授業評価アンケートの反映度合いなどは各教員によって大きく異なるため、一概には言えない。	ご回答、ありがとうございました。すべての教員に対して、評価アンケートの結果を授業改善につなげるように周知し、改善していきます。	教務部
	63	学修環境の改善に反映されていると感じている。その理由として、学修行動調査では、必ずフィードバックがある。グラフで昨年と比べることができるため、自分自身が成長したことや向上したい力等を理解することができた。	学生の皆さんが学修するうえで重要なことは、自身の学習到達度がどの程度なのかを知ることです。その意味では学修行動調査もそうですが、卒業時にも「あなたはこれくらいの力が身についています」といったものを最終的にリーダーチャートのようなかたちで示しています。自分の力を自分自身で判断して、その次にどのような学修につなげていくのか、というところをそれぞれが活用して、計画を立てることに役立ててほしいと思います。また、学修行動調査は「IR」という活動として行われており、学生の皆さんにさまざまな意見を聞いたり調査を行ったりして、それらを大学で活用しています。その目的は2つあり、1つ目は学生の皆さんに成長実感を持ってもらい、それを次の学修につなげていくことであり、さらには、必ずしも学修に満足できていない学生に対して個別に学修指導を行っていくための材料としています。2つ目の目的は、全体的な傾向をつかみ、大学として至らない点があれば、それを改善していくことです。なお、今回の意見については、1つ目を重視しているように思いますが、一方で他の学生委員からは2つ目に関して、改善に反映されている部分と反映されていない部分があります、あるいは、反映されていないところが多いのではないか、という率直な意見があがっています。学生の皆さんの意見全てを聞き入れて、それに向けて改善していくのはなかなか難しく、時間がかかるものであったり、膨大な投資を必要とするものであれば、皆さんが卒業するまでに反映できなかつたりすることもあります。さらには、改善をすることによって別の影響が出る可能性もあることから、すぐには踏み込めないというような要望もあります。例えば、学生委員からの意見のなかに、授業評価アンケート結果及び教員からのコメントについては、学内のWebサイトでしか見ることができないとの指摘を受けていますが、これらを大学ホームページに公表するには、公表することが及ぼすさまざまな影響についても検討が必要です。そのため、すぐには反映できないが貴重な意見ですので、今後反映していくことについても考えていきたいと思っています。	教育・学修支援センター
	64	反映されている部分もあれば、反映されていない部分もあると思う。	No. 62で対応	教務部
	65	反映されている授業もあれば、あまりされていない授業もあると感じる。また、学生生活や学修環境の改善には大いに役立っているのではないかと感じる。	ご回答、ありがとうございました。すべての教員に対して、評価アンケートの結果を授業改善につなげるように周知し、改善していきます。「学生生活や学修環境の改善には大いに役立っている」という点は今後につなげていきます。	教務部
	66	授業評価アンケートや学修行動調査の結果は、自分自身の確認不足でもあるかもしれないですが、変化が目に見えて分からないため、あまり反映されていないのかなと感じます。個人に対する学修行動調査のフィードバックがほぼなされていないように感じるため、結果がどのように利用されているのかが気になります。	ご回答、ありがとうございました。すべての教員に対して、評価アンケートの結果を授業改善につなげるように周知し、改善していきます。また、フィードバックによってその結果の活用がわかるように改善していきます。	教務部
	67	授業ごとや担当の先生方によって授業の行い方に差があり、内容の理解度もかなり違うと感じている。その違いを埋めたいと感じているが、次の年になってもあまり変わっていないと感じないこともある。だが、前年度の反省を活かした授業や取り組み方を考えてくださる先生方もおり、より意欲的に授業に取り組めるように繋がっているとも感じる。	No. 62で対応	教務部
	68	改善されている場合とされていない場合があるように感じます。	No. 62で対応	教務部
自由記述 その他、学生の意見・要望への対応について、気づいた点等があれば記入してください。	69	・ 年に一度ぐらい、本学は学校生活に関するアンケートを実施していますが、そこに記入したところであまり改善されないと感じています。	改善されていると感じてもらえるよう、今後も検証しながら情報公開の方法など改善に努めていきます。	教育・学修支援センター
	70	授業評価アンケートや学修行動調査等をそもそも把握していない学生が多いと思うので、一部の教員が取り入れている方法ではあるが、最後（15回目）の講義で回答する機会を作ってはどうか。また、今回の試験日程については、おそらく会議の関係もあり教員だけで試験日程が決まっていると思っているが、その他レポートの提出期限なども含め、学生の意見も取り入れて決定したほうがよいと思った。大学全体に対しては、試験の日程が開示されるのが遅かったり、他にも日程がシビアなものが多かったりするので、もう少し寛大な対応をしてほしい。	試験日程に関しては、調整してできるだけ早く発表はしていますが、学生の皆さんからすると遅かったり、タイトだと感じたりしているということは実感しています。どの期間まで早めることができるのか、そして余裕のある日程にできるのかについては、後期試験に向けてすぐに調整したいと思っています。ただ、学生の皆さんからの意見をできるだけ取り入れて行きたいとは思いますが、提出期限等については、個々の事由を全て反映することはなかなかできないので、学生の皆さんからの意見をどのように取り入れていくことが可能なのか、持ち帰って検討させてほしいです。また、授業評価アンケートについては、授業の時間を使って行っていたこともあり、回収率も高く非常によい方法ではありましたが、しかしながら、15回の授業については十分な内容を用意していることもあり、そのようななかで回答に時間をとることは難しいため、現在はオンラインの方法を取っています。なお、意見を反映できるように、授業の最終回等で行う方法も含めて、授業評価アンケートを担当している部署と相談しながら、再検討していきたいと思っています。	教務部

【単位認定、卒業認定、修了認定について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q8 シラバスに記載されている評価基準等については、わかりやすく、適切に定められていると思いますか。	71	・教員によってバラつきがありますが、評価基準を明確に示していることは良いことだと思います	ご回答、ありがとうございました。評価基準を明確に示すことは、安心して履修することにつながると考えますので、すべての教員に対して明確な評価基準を示すことを徹底し、バラツキの解消を図ります。	教務部
	72	適切であると感じる。しかし、評価に際して、絶対評価なのか相対評価なのか講義ごとにそれぞれであるため、その旨もシラバスに記載して欲しい。	ご回答、ありがとうございました。すべての教員に対して明確な評価基準を示すことを徹底します。絶対評価なのか相対評価なのかの明示、シラバスへの記載についても検討を進めます。	教務部
	73	適切に定められていると思います。一回目のオリエンテーションで印刷して配布いただき、「このような講義の順番で行っていく」ということを一つずつ丁寧に伝えてくださる先生方もいたので、興味や関心をもって受講することが出来ました。	ご回答、ありがとうございました。回答から、評価基準を明確に示すことは、安心して履修することにつながるということが確認できました。感謝します。すべての受講生が興味や関心をもって受講することができるように、すべての教員に対して、学生に丁寧な説明を行うように徹底します。	教務部
	74	評価基準が細かく記載されていて、わかりやすいと感じる。	ご回答、ありがとうございました。すべての教員に対して明確な評価基準を示すことを徹底します。	教務部
	75	評価基準等についてはある程度はわかりやすいのではないかと感じる。また、これらの基準は適切に定められていると思う。	No. 74で対応	教務部
	76	シラバス内で使用されている言葉が難しいことが多いため、具体的にどのレベルに達したらこの評価がもらえる、といった基準をもう少し分かりやすくしてもらいたい。また、シラバス内には「秀」「可」の基準しか記載されていないことがほとんどのため、この基準に当てはまらなかった場合、例えば「優」「良」の場合はどのように評価されるのかと感じることがある。	十分にシラバスを検討して学修に取り組んでもらっているようです。しかしながら、シラバスの表記については、受講者目線、学生目線に立って作成できていない面があるようなので、次回のシラバス作成までの間に点検したうえで、教員への周知も行い、できるだけ学生の皆さんが分かりやすい表記に整えていきたいと思えます。また、「秀」と「可」の評価基準に関しては、単位認定の最低限となる「可」と目指してほしい「秀」を示すことで、その範囲内において「良」と「優」があるというふうには教員は考えていたが、「良」と「秀」に関しても明確な基準があったほうが、学生の皆さんにとっては学修に取り組みやすいということが分かりました。細かな評価を表記することが可能かどうかも含めて、次のシラバスまでに検討し、できるだけ反映するかたちにしていきたいと思えます。	教務部
	77	授業ごとで異なるが、テストの内容や最終レポート課題の配分が少なすぎる授業があると感じる。授業に出席し、毎日のレポートを提出しているだけで単位が確保されるような授業もあり、それぞれの分野の理解度を高めるものではなくてしまっている。また、必修の授業と選択必修の授業ももう少し差を出し、必修の授業をもっと重点的に生徒に知識として身につけさせるべきだと感じる。	ご回答、ありがとうございました。評価に関しては、科目の理解度や到達度を適切に判定できるものとなるように改善を進めます。その過程で、意見にあった「テストの内容や最終レポート課題の配分」に関しても検討します。「必修の授業をもっと重点的に生徒に知識として身につけさせるべきだと感じる」というご意見に関しても、各学部・学科と相談し、検討と改善を進めていきます。	教務部
	78	はい。	No. 74で対応	教務部
自由記述	79	最近、感染症により公欠が増えているが、その際的评价基準があいまいで試験が受けられず、レポート提出となった場合に成績が下がったということをよく耳にする。公欠について、どのような対応をしているのかははっきりしてほしい。また、GPAの成績優秀者には、授業を多く受けられるようになっているが、他にも何か支援が受けられるような制度があれば、学生も授業への意欲が高まるのではないかと感じている。	感染症に関しては、単位認定等についてさまざまな不安があったと思えます。なお、本学には公欠の制度がなく、欠席については、それぞれの事由によって各担当教員が判断しています。また、大阪大谷大学文学部・教育学部・人間社会学部授業科目履修規程（薬学部授業科目履修規程）で決まっていますが、試験が受けられなかった場合の追試験に関しては、一定の評価をマイナスするということが決まっており、基本的にはそれに従って行っています。病気になったうえに、成績が下がって不安になってしまうかもしれませんが、これについては規程で決まっているため、そのように実施しています。ただ、十分に配慮して負担のないように実施をしていこうと考えており、欠席にあたって、それがどのように評価されるのかということについて、学生の皆さんの不安がないようにできるだけ丁寧にtani-WA等を使って周知をしていきたいと思えます。また、GPAについても、結果だけではなく次の励みになるようなものにしていくということは、本当に大切なことであると思えます。現在はGPAの成績上位者にはCAPを少し緩和し、取りたい科目が多く取れるようにしていますが、それ以外の支援策について、例えばキャリアセンター等とも相談し、GPAが高いことについての何らかの証明や、別の取組等の支援ができるように引き続き検討をしていきたいと思えます。	教務部
	80	成績の配点の%は分かりますが、具体的な振り分けられ方（tani-WAの点数配分や調整で利用するから出席すれば大体これぐらいは点数が入る等）や振り分けられ方の各項目の%がメールで届くと良いなと感じました。	ご回答、ありがとうございました。検討し、より明確な単位認定等につなげるようにします。	教務部

【教育課程及び教授方法について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q9 各学科の カリキュ ラムにつ いては、 学びたい 科目が設 定されて いますか。	81	・自身の好きな分野が学べる学部・学科に入学しているわけですから、そこは問題ないかと思えます	ご回答、ありがとうございました。意欲をもって学んでいることがわかりました。今後も、学びたいと思える科目の設置・編成に向けて検討・改善を進めていきます。	教務部
	82	歴史文化学科におけるカリキュラムは概ね適切であると感じる。しかし、様々な分野を広く・浅く学ぶようにカリキュラム設計されているため、結果として大学での学びで身に付けることができたことも大した能力でないと感じることもある。より専門的な能力を確実に身に付けるためにも、若干の修正はあったほうが良いのではないかと思います。	本学科のカリキュラムは、歴史文化を幅広く学んだうえで専門分野の学びを深めていくという方針に沿って組んでいます。今後は、卒業時までに専門的知識・技能を集中して身につけていくこととなります。要望を踏まえて、より適切なカリキュラムを組むことができるよう検討していきたいと思えます。	文学部 (歴史文化学科)
	83	設定されています。専攻を越えて学びたいことを学んでいます。	No. 81で対応	教務部
	84	設定されていると思う。	No. 81で対応	教務部
	85	カリキュラムについて、授業内容や方法などは、きめ細やかな少人数教育を行ったり、学生参加型のアクティブ・ラーニングやグループワーク、さまざまな人と話し合えるグループディスカッション等を活用しており、いろいろと工夫を凝らした授業になっているものもあると思う。	主体的、対話的で深い学びを実現させるための方法としてアクティブ・ラーニングがあり、一方的な受け身の授業ではなく、コミュニケーションを図り、意見のやり取りが行われたりするものです。そうした能動的な学びとして、アクティブ・ラーニングをできるだけ多く用いていくということは、将来、学生の皆さんが教員側の立場となったときにも求められることですので、教員としても授業で活用し、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。	教育学部 (特別支援)
	86	各学科のカリキュラムには学びたい科目が設定されているのではないかと感じています。主に心理学を学びたいと思い入学したため、様々な心理学領域を学べる科目が設定されていて充実しているなど感じています。	人間社会学科の心理学系カリキュラムについて一定の評価をしてもらっていること、その前提として、その心理系カリキュラムのコンテンツやシークエンス（順序）等について一定の理解をしているだろうと想像されることは、そのカリキュラムについて熟慮のうえ、提供してきた学科組織としても、たいへん嬉しく感じています。これからも、ぜひしっかりと勉学に励まれることを期待しつつ、学科組織としても懸命に教育活動に取り組んでいきたいと考えています。	人間社会学部 (人間社会学科)
	87	設定されていると感じる。目指している資格取得に向けた授業が非常に多くあり、他の授業と重複するような内容の授業もそれぞれの授業でしっかり教えていただくことができている。	No. 81で対応	教務部
	88	はい	No. 81で対応	教務部
Q10 授業内 容・方法 は、きめ 細やかな 少人数教 育を行っ たり、学 生参加型 のアク ティブ・ ラーニ ング（グ ループ ワーク やディ スカッ ション 等）を 活用す る等、工 夫をこ らした ものな って いると 思いま すか。	89	・講義・教員によりけりです。資格や課程の関係上、どうしても多くなってしまいう講義はありますし、大人数であればあるほど、きめ細かな支援・相談やフィードバックは難しいだろうと思えます。 →但し、少人数であっても全くやらない講義もあります	少人数でのきめ細やかな教育は本学の特長です。日本語日本文学科では、各授業の担当者から提出されたシラバスをチェックして、この特長を維持できるよう努めています。それが実現されていない科目があれば、遠慮なく申し出てください。	文学部 (日本語日本文学科)
	90	概ねの講義において、少人数教育やアクティブ・ラーニングなどの活用等の工夫・配慮が成されている。	講義の規模・性格によっては積極的に活用するのが難しい場合もありますが、少人数教育とアクティブ・ラーニングにおける工夫と配慮を概ね評価していただくことができ嬉しく思えます。今後も、学生の希望を踏まえながら、よりよく運用できるよう工夫していきたいと思えます。	文学部 (歴史文化学科)
	91	授業内容・方法は、少人数で工夫を凝らしたものになっていると思う。その理由として、隣に人いやグループになって意見を交換する機会がたくさん設けられている授業がある。そこでみんなの意見を聞こうという気持ちになったり、グループで話し合いをするなかで、相手の考えたことを自分なりに理解して学ぶことができる授業が多かったと感じている。	Q9のコメントと同様に、できるだけ受け身ではなく、能動的な参加型の授業をしていくという意味では、アクティブ・ラーニングというかたちのなかで話し合いを行う等、各教員が工夫して取り組んでいると思えます。また、これらは隣同士で行われるということもあるし、グループで行われるということもあると思えますが、そうしたところを多く取り入れながら、自分自身の考えをしっかりと構築していくということにつなげていってほしいと思えます。今後も継続して取り組んでいきます。	教育学部 (幼児教育専攻)
	92	授業の教授によって、やり方は様々であると感じる。	ご意見ありがとうございます。教員は担当科目について高い専門性を持っていますが、さらに日々授業改善に努めています。また、教員間で授業見学会を行う研修等、研鑽を積んでいます。これからも学生が“わかる”“納得できる”授業を追求していきたいと思っています。	教育学部 (学校教育専攻)
	93	先生方にもよるが、大抵の授業ではグループワークやディスカッションを取り入れているものが多く、様々な人との意見交流ができるのでとても勉強になると感じる。また、パワーポイントなどの教材にも工夫をしている授業もあるため、そのような授業は面白く勉強になると思う。	ご意見ありがとうございます。これからは授業においては、学生どうしが対話を通して深い学び合いができるように、グループワークやディスカッションによる意見交流を多用していきたいと思っています。また、パワーポイント等による教材の工夫もさらに進めていきたいと思っています。	教育学部 (特別支援教育専攻)
	94	先生にもよりますが、アクティブ・ラーニングの授業が取り入れられている機会は比較的多く、退屈せず授業に参加出来ると感じています。受講人数が少なく、先生も複数人で担当して下さる授業では、約4人程度のグループに先生が1人ついて下さる形のため、質問もしやすく受講しやすいなと感じています。	人間社会学科は、学びのアクティブラーニング化のためにプロジェクトチームを作って、検討を重ね、その結果、比較的多めのPBL科目を提供するようになってきました。この点について、肯定的にとらえてもらっていることは、学科組織としても、うれしく感じています。今後とも、こうした、主体的・対話的で深い学びを提供すると言われている手法を積極的に取り込み、より効果の高い学びを提供するよう、学科組織としても努めていきたいと思えます。	人間社会学部 (人間社会学科)
	95	3年生になり、より一層アクティブ・ラーニングを行っていると感じるようになった。教員免許取得に向けた授業で特に多く、グループで課題に取り組んだり意見を出し合ったりより良い案を考えたりとコミュニケーションを取る機会にもなってとても授業が充実していると感じる。	能動的な学修（アクティブラーニング）は受講者が主体的に課題を解決しようとするため、高い学修効果が期待されています。教員と学生や学生相互のコミュニケーション力等も高まるため、今後も我々教員から質の高い能動的な学修方法を提供するように努めたいと思えます。	人間社会学部 (スポーツ健康学科)
	96	はい（特にSAセミナーの制度は良いと感じます。）	授業方法については、より一層の改善に努めていきたいと思えます。SAセミナーについては、今後も継続していく予定です。	薬学部 (薬学科)
自由記述	6限目に設定されているオンデマンドの講義方法について、若干疑問に感じる講義方法があった。講義名は避けるが、過去に他大学でのオンデマンド型講義にて実施されたことと見受けられる動画をそのまま使ったような講義がされており、講義内においても大阪大谷大学のことを他大学の学生として読んでいたり、若干違和感を覚えた。他大学の名前が出てきた点以外では、動画は毎週更新されるものであると思うが、動画を撮り溜めているような感じを受けたり、授業も過去に行ったものをそのまま使っている感じが出ていたりする等、さまざまな点から使いまわしをしているように感じた。	授業の内容に関しては、以前であれば各教員が好きなことを好きなように話すというようなこともありましたが、現在においてはカリキュラム・ポリシーのなかで、個々の科目に特定の位置付けがなされていることから、そのなかで内容が決まってくる。そのため、他大学での講義の内容と本学での講義の内容の一部で、同じ部分が出てくることが一般論としてはあり得る話かとも思いますが、逆にいうと同じ講義の名称であっても他大学と本学では授業内容が異なってくるということもあり得る話です。ただ、ここでは、使いまわしの印象を与えるような動画、あるいはオンデマンド授業が行われていることがよいのかどうかということであって、当然それは手抜きをしている印象も与えるし、あまりよろしくないということは当然のことです。オンデマンドの講義担当者に対して、そのあたりについては注意喚起していきたいと考えています。具体的に対応するために、別途、聞き取りを行ったうえで、対策を立てたいと思えます。	学長 文学部 (歴史文化学科)	